

令和5年度 学校経営報告

東京都立向丘高等学校長 赤嶺 治

1 令和5年度を取組目標と方策

(1) 学校経営

ア 組織

(ア) 教育職員

生徒の進路実現に向けた学習指導を展開するとともに、良好なコミュニケーションを図り、教員の協働性、同僚性の高い組織環境を構築する。自己研鑽に励むとともに、人材育成を目指した OJT を推進する。ハラスメントやサービス事故のない職場を維持する。

- ・学校経営計画、分掌目標、職層に沿った明確で具体的な目標を立て、その達成に向けて力を発揮するため、達成時期、数値目標等を自己申告書に明記し、達成に向けて計画的に取り組む。
- ・新たな課題、解決方法を積極的に発見し、解決案を提示する。
- ・校内研修、主幹会議、企画調整会議、職員会議等による教育課題の共有化を図る。
- ・企画調整会議での議論の活性化による学校経営の一層の充実・改善を図る。
- ・体罰や個人情報漏洩等のサービス事故を防止する。
- ・全教職員が互いに人材育成に積極的に取り組み、互いの能力開発に努める。
- ・若手教職員が主体的に自己研鑽に励み、自信を持って学校教育や学校運営に当たれるようになるために、主幹教諭、主任教諭、経験豊富な教諭は自己申告書に人材育成に関わる目標を明記する。
- ・若手教員の研修計画に基づき、各主幹教諭は専門分野の指導を計画的に実施する。
- ・ITによる業務の効率化による職員の業務の負担軽減を図る。

(イ) 行政職員

適正な予算編成と執行などの財務管理及び安全な教育環境の維持・管理を徹底するとともに、学校経営を支える企画提案に取り組む。また、ハラスメントやサービス事故のない職場を維持する。

行政職員の学校運営への参画。

- ・中期的な視点に立脚した自律経営推進予算の編成と効率的執行を行う。
- ・学校における働き方改革プランに基づき、ライフワークバランスの実行を進めるため、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図る。
- ・副校長と連携し、遅滞のない計画的な業務を進める。また、校内施設・設備の安全点検と増改修推進のための支援センター、高等学校教育課との折衝を行う。
- ・教員と経営企画室との連携、意思疎通を進め、双方にとって効率的な業務改善を行う。
- ・経営企画室職員は、経営企画室長の指導の下、職務に精通するとともに、学校運営に対し、積極的な提案を行う。
- ・効果的な教育活動、安全な学校生活などについて、付加価値の高い業務を推進するため、効果的な教育活動、生徒の安全管理について、優先順位を明確的にして予算計画を立てる。効率的で有効な予算活用を心掛ける。適正かつ迅速な予算執行を行う。
- ・経営企画室については、進行管理を適切に行うとともに、報告、連絡、相談を必ず行い、責任と意欲のある業務を遂行する。
- ・学校説明会など広報活動に携わる。

イ 施設・設備組織

施設・設備を安全に維持・管理するとともに、その充実・改善を図って教育効果の一層の向上を図る。

- ・施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修や改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センターや営繕課と連携して教育環境の維持改善及び

向上を図る。

- ・複数年度にわたる中期的計画の作成。
- ・空調の改修工事の実施及び体育館及び教室のLED化を進める。
- ・デジタルリーディングハイスクールとしてのIT機器の整備や更新による充実を図る。
- ・ITによる業務の効率化に伴う職員の業務の軽減とライフワークバランスの実現を図る。

(2) 学習指導・進路指導

ア 学習指導等

卒業までに行けるようになる力（ディプロマ・ポリシー）を見通した学習指導を行った。

- ・生徒の深い学びと学力の定着を図る授業計画の作成、アクティブラーニング型授業の促進に取り組む。
- ・自学自習の支援により、自ら学ぶ力を向上させる。
- ・相互の授業見学を通し、専門性の向上を図る。
- ・教員一人ひとりの授業力を高めるため、「生徒が主体的に活動する場面を含む授業（主体的、対話的で深い学びを目指す授業）」を全教員が年1回以上公開する。
- ・相互授業見学を年2回実施する。提案授業における授業デザインの作成、見学者から助言をもらうことで、他の教員の工夫を知り、よい取組は共有し、アレンジして活用することで授業力の向上に取り組む。
- ・授業改善に関する情報共有のための研修会を計画的に行い、全員参加で授業力を高め合う。
- ・授業研究、授業改善に関するデータベースの構築及び活用するための校内研修を開催する。
- ・自宅学習に意欲的に取り組む生徒を育てるため、生徒が主体的に取り組むことが期待できる授業、予習、復習方法を全教員が考え、授業で実践する。
- ・生徒に定期的、計画的に課題を出し、課題と授業の連動を高め、生徒の成功体験を積み重ねる。
- ・教科間で指導計画に基づく課題の量と内容を調整し、生徒が学習の見通しを立てられるようにする。
- ・学習時間記録票を使い、学習の自己管理を行わせる。朝学習を計画的に実施する。
- ・個々の生徒が活用できる時間や学力に応じて、基礎固めや発展学習に主体的に取り組む、意欲のある生徒を育てるため、Web学習の効果的な活用方法を企業と連携して生徒に提供する。
- ・Teamsを積極的に活用し、Web教材の活用方法を研究する。

イ 進路指導

広い視野と挑戦心の育成を図る。

- ・将来の進路決定のために深い学びと教養を身に着けさせる。
- ・進路、学年、教科等の連携を深め、組織的な進路指導体制を構築する。
- ・模試分析会を充実させ、結果を授業に反映させる。
- ・早い学年段階から進路意識を高める工夫を取入れ、高い目標を持たせる。外部講師による生徒向け進路講演会を実施し、面談や出願校指導に活用する。
- ・大学入試問題や新傾向の問題を授業や定期考査に取り入れる。
- ・リーダーシップ教育をとおした主体性の涵養とポートフォリオの振り返りによりキャリア意識を向上させる。
- ・大学入学共通テスト対策を早期かつ適切に対応するため、英語4技能習得のための実践的指導を行う。1年次には、TGG（東京英語村）での英語活用体験、英語4技能試験の受験、英検の全員受験等を実施する。
- ・学習や進路に関する取組みを計画的に配置し、生徒が積極的に活用するよう支援する。
- ・模擬試験等の結果を活用して、生徒全体の学習理解度を分析し、授業に反映する。成績分析を行い、学習指導、進路指導、出願指導等に活用する。

- ・模試分析会では、学年、教科によって同質な分析会が実践できるよう努め、多くの参加者で検討しあう。ファインシステムやスタディサプリ for teachers 等を個々の生徒の進路指導や二者、三者面談の際に活用する。
- ・高大接続改革等に対し、情報の収集に努め、適切な対応を進める。生徒の学習活動プロセスを蓄積し、キャリアレポートとしてまとめる。

(3) 生徒の健全育成と心身の健康

ア 健全育成

社会人として公共心、道徳心を涵養し、規律・規範の育成や社会貢献の意識の醸成を図る。

- ・基本的生活習慣の確立、時間管理の意識向上を図る。
- ・授業、部活動、ホームルーム活動をとおしてコミュニケーション能力を育成する。
- ・チャイム着席を励行し、授業に集中する環境や意識を向上させる
- ・身に付けるべき社会性を育成する。特に時間の順守（遅刻防止）、身だしなみ、挨拶の励行を指導の重点とし、生徒部と学年が協力して効果的な指導を図る。
- ・組織的な清掃と美化活動の指導を徹底する。
- ・携帯電話の活用に関する意識の向上を図る。特に SNS の適切な活用とゲーム等への依存防止の指導を、セーフティ教室等を通じて繰り返し行う。
- ・交通安全教室を通じて、交通ルール遵守の意識を高める。特に自転車事故の防止に努める。
- ・成人年齢が 18 歳に引き下げられたことを受け、投票行動や政治への関心を持つよう主権者教育の充実と、消費者教育の充実を図り、社会性を高校段階において十分に培う。

イ 心身の健康

心と体の健康を守り、安心して学校生活を送られる環境づくり。

相談、支援体制の一層の強化を図るとともに、生涯にわたる健康維持、増進に必要な基礎知識を育成する。

- ・「教育相談委員会兼学校いじめ対策委員会」、「学校保健安全委員会」など生徒の心身に関連する委員会の効果的な開催による生徒の支援及び食育リーダーを中心とした食育の推進。
- ・スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等を活用した研修会の開催。いじめ、体罰を発生させず、生徒が安心して学校生活を送れる環境を作る。いじめ行為や心身の不調等、生徒の変化に機敏に気づき、学年や管理職と情報を共有して、早期対応に努める。SC 及び保護者との連携を図る。
- ・特別支援委員会を随時開催し、合理的配慮について教員全体で理解を深める。生徒の変化に機敏に気づき、情報を共有して、早期対応に努める。個別支援計画を作成する。特別支援教育に関して教員全員が理解するための研修会を実施。
- ・生徒間で互いを尊重する意識や共生の意識を育て、安心で安全な学校とする。
- ・生徒の変化を見過ごさず、教育相談委員会等に伝え、迅速に対応する。
- ・SNS 適正利用についての講演を総合的な探究の時間を活用して行う。
- ・発達障害の理解、教員のカウンセリング能力の向上と相談体制の充実を図る。

(4) 特別活動

ア 行事等

学校行事を通して、情操を豊かにするとともに、健全な帰属意識を醸成する。また、ホームルーム活動等をとおして、お互いに高め合う集団を育成する。

- ・生徒の一体感、自己肯定感、自尊感情を高めるための場作りと指導を実践する学校行事、生徒会活動、委員会活動、ホームルーム活動、外部ボランティアなどでの、生徒の活動が生徒間で見える取組み、『活動の見える化プロジェクト』を実施する。
- ・文化、芸術に親しむ行事の実施。・防災に係る活動に親しむ行事を実施する。

- ・ 体育活動に親しむ行事、読書活動に親しむ行事、主権者意識を高める行事を実施する。

イ 部活動

部活動への積極的な参加を奨励し、心身の健康を増進し、文化教養を高める。地域に貢献する社会性の涵養を図る。

- ・ 部活動への参加を奨励し、文化活動や体育活動をとおして、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。
- ・ 主体性のある生徒を育成するための指導スキルを身に付け、特別活動や授業でその力を発揮する。
- ・ リーダーシップ（誰もが発揮するリーダーシップ）教育とファシリテーションスキルを高める教員向け研修会を実施する。部活動等では計画的なミーティングを実施し、ファシリテーションスキルを活用してリーダーシップ教育に挑戦する。
- ・ 事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底。
- ・ 顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等を実施し、部活動生徒をサポートする。
- ・ 公式戦参加奨励や公的発表会等への参加を支援する。
- ・ 部活動指導員の配置数、時間数の充実を図る。
- ・ 地域の学校や他校との部活動をとおしての生徒同士の交流活動を展開する。

(5) 地域貢献

保護者・地域との絆を深めることによる応援者の獲得

- ・ 地域に認められる学校となるために、規律・規範意識の育成、あいさつ指導等を推進するとともに地域との連携を充実させる。
- ・ 地域行事への参加や地域との交流活動を推進し、積極的に社会参加、社会貢献しようとする態度を育成する。
- ・ 講演会をボランティア活動、共生社会についての理解、グローバルな人材教育などにも活用する。
- ・ SDGs の観点から地域の課題を発見する。
- ・ NPOなどの外部機関と連携して映像作品や出版物を作成する。

(6) 広報活動

教育活動の広報を通して、地域社会や地域の学校に本校の教育活動への理解を深めてもらうとともに、より学ぶ意欲の高い生徒の募集を目指す。

- ・ 本校の教育活動を、機を逃さずタイムリーに紹介する。
- ・ ホームページや屋外掲示板を適切に管理し、更新する。
- ・ 学校説明会では生徒に行事などの取組みを紹介させる。
- ・ 夏期学校見学会以外に、向陵祭（土曜午後、日曜午前）に個別相談会を実施する。
- ・ 学校紹介映像を作成する
- ・ 学校ホームページの充実及び公式 YouTube チャンネル、x（旧 Twitter）等の活用により、行事や部活動等の教育活動の情報発信を実施する。
- ・ 幅広く（対象及び地域）本校の魅力を広報し、中学生の選択肢に本校を加える。
- ・ 塾向け学校見学会を実施する。
- ・ 広報活動を全員で行い、教員自身が向丘高校についての真の理解者となる。
- ・ 全教員が広報活動に参加し、中学校、中学生及び保護者に本校の説明を行う。教員全員が本校の方針、特徴、具体的取組み等について説明できるようになる。

2 成果と課題

<p>(1) 学校経営</p>
<p><成果></p> <p>ア 組織</p> <p>(ア) 教育職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画調整会議を中心として学校経営上の課題解決に取り組むことができた。 ・若手教員の人材育成に、管理職からの研修を始め、全職員が積極的に取り組み研鑽に励めた。 <p>(イ) 行政職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎の空調設備について、更新工事を継続中。工事に伴い、LED化を進めることができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための予算を有効活用した。 ・オンライン授業に対応するための備品等を迅速に購入した。 ・積立金や部費等の私費の適正な管理を徹底し、事故の防止に取り組んだ。 ・新規採用教員を対象とした校内研修会を実施した。 <p>イ 施設・設備組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備について、所管の学校経営支援センターとの連絡・調整を行った。 ・B棟、A棟6階女子トイレに盗撮防止用アクリル板を設置した。 ・全館空調の改修工事を継続して実施している。
<p><課題></p> <p>ア 組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針を踏まえ、教育活動の更なる成果を上げるために、進学実績向上に資する専門性の一層の向上に努める。 ・分掌主任等を担う若手中堅教員の育成と離職防止に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導や大学入試制度についての知識の習得、研究をさらに進める必要がある。 <p>イ 施設・設備組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎棟の空調設備の改修工事に合わせ、廊下などの照明をLED化する。
<p>(2) 学習指導・進路指導</p>
<p><成果></p> <p>ア 学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの到達目標を設定、教科会での進捗状況の確認・調整も行った。 ・教員の相互授業見学を年2回実施するとともに、研究授業を実施し、授業改善を図った。 ・一人1台端末を活用した授業展開により、生徒の主体的学習力（意欲）が伸びている。 ・多くの教員がアクティブラーニング等の手法を用いることにより、生徒の学習が対話的な深い学びに結びついている。 ・1, 2年生の全員の英語検定試験受験を導入の成果として、英語の成績が伸びている。 ・観点別評価の研修会を行い、教員の評価法に関する理解を深めた。 <p>イ 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学2名、早慶上理2名、GMARCH50名→62名 成成明國武獨77名→86名、4工大31名→15名に、 理系では薬学部16→9名、日東駒専172名と、 GMARCH合格実績を更に躍進させた。(すべて現役の数) ・進学指導研究校の指定を受け、進路全体計画を策定し、外部模試、講習補習や面談等の着実な実

<p>施を図った。令和5年度は、模擬試験の平日実施による全員受験に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を学年ごとに年2回実施するとともに、模擬試験の分析をし、指導方針を検討した。 ・模擬試験の結果を踏まえ、生徒の苦手とする分野を把握した指導の重点化を図った。
<p><課題></p> <p>ア 学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新課程学習指導要領及び大学入試に対応した3年選択科目の設置 ・授業改善と個々の生徒に対応した補習・講習の一層の充実 ・デジタルリーディングハイスクール事業の推進及び個別最適な学習指導の展開 ・成果の挙がっている指導方法等を教科・学年で共有 <p>イ 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験ごとの志望者リストの作成と希望に応じた講習の実施 ・合格大学別の模擬試験・定期考査の分析 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施
<p>(3) 生徒の健全育成と心身の健康</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談委員会兼学校いじめ対策委員会」を毎月開催し、支援を必要とする生徒の情報を管理・共有し、指導・育成に役立て、継続的に生徒・保護者を支援した。 ・スクールカウンセラーを活用し、生徒のみならず、保護者のカウンセリングも行った。 ・アンケートによるいじめ等に関する調査を年3回実施し、未然防止・早期発見に努め、自他の生命や人権を尊重する豊かな心や態度の育成を図ることができた。 ・カーディガンを制服として採用し、学年進行で着用を進めていく。 ・保護者連絡システムの導入により、配布物を保護者へ直接配信できるようにした。
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の一層の定着 ・相談体制の一層の充実と生徒情報の共有 ・東京都精神保健福祉センター等の専門機関との連携 ・欠席の多い生徒へのスクールカウンセラー等を活用したメンタルケアの一層の支援 ・コロナ感染症不安等による出席停止の増加
<p>(4) 特別活動</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の加入率は、83.6%と、多くの生徒が部活動に熱心に取り組んだ。 ・吹奏楽部がクリスマスコンサートや定期演奏会を再開させた。 ・文化祭では、1学年は演劇・映画製作等の作品制作に取り組み、演目の充実を図った。
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我の未然防止策の徹底や事故が起きた際の迅速かつ適切な対応。 ・部活動、行事などを通じた生徒の心身の成長を図る機会の確保。 ・学校行事の充実を図り、本校の特色としてPRできる行事の充実。 ・合唱コンクールの実施
<p>(5) 地域貢献</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校を会場とした地域運動会を実施し、交流を深めると共に教員・生徒による地域活動に貢献することができた。 ・文京区防災担当や消防署員、消防団員の支援を受け、防災訓練を実施した。

<課題> <ul style="list-style-type: none"> ・地域施設と連携した行事の一層の取組 ・地域の団体との連携
(6) 広報活動
<成果> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、授業公開を再開し、広報活動の充実を図った。 ・公式YouTubeやホームページ、X(旧twitter)を活用して、教育活動の特色等を発信した。 ・一次募集の応募倍率は2倍を超え、過去最高の応募者数となった。
<課題> <ul style="list-style-type: none"> ・電子データ(動画等)を活用した広報活動の一層の充実 ・学校説明会への教員の協力体制の強化

3 学校評価

(1) 保護者(23項目の設問)
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へのアンケートの提出率が昨年36%から61%に向上した。 ・入学させてよかったかという設問に対しては、肯定的意見が79%から91%に向上した。また、「学校経営計画」や「今年度の取組」についての保護者の理解は63%から89%に向上し、HPやX(旧Twitter)での広報活動やTeamsでの情報提供の効果が高かった。 ・部活動や学校行事への評価は89%台であり、コロナ感染症が5類となり活動の充実が図られた。 ・公式YouTubeで学校行事や学校生活が紹介され大変参考になる。 ・生徒への相談についても82%が肯定的に捉えている。 ・長期休業中の講習や補習については肯定的意見が49%であり、改善を要する。 ・子どもと話す機会が少なくなり、HP等の情報が様子を知る手掛かりの1つとなっている。
(2) 生徒
<ul style="list-style-type: none"> ・入学してよかったは、81%の肯定的な評価を得ている。 ・「教員が生徒への期待の表明」や学習の充実、わかりやすい授業などは73%の評価となった。 ・習熟度別授業の効果については、73%であり、更なる改善に取り組む必要がある。 ・生徒の学校評価アンケートは、全校項目において70%前後の満足度である。 ・全校生徒参加で行う行事や文化祭における保護者、中学生の来場により、学校生活の充実感が向上しており、向丘の生徒としての意識を高めることができている。
(3) 地域の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールや交通ルールを守っていますか。頭髪、服装は高校生らしいと思いますか。などの数値は安定して高評価となっている。地域の運動会における会場提供及びボランティア参加に感謝の言葉をいただいた。

※卒業後の進路実績は向上しており、学校としての進学指導実績、生徒の学力は向上している。

※学校の特色の1つとして文化祭を充実させることで、本校の魅力を高めていきたい。

※合唱祭の実施により、生徒が集団で活動する場面を増やし、所属観を高めさせたい。

3 今年度の数値

		令和2 (73期)	令和3 (74期)	令和4 (75期)	目標	令和5 (76期)
1	国立大 現役合格者	3	4	6	5	2
2	早慶上理 現役合格者	4	3	5	5	2
3	GMARCH 現役合格	17	30	50	50	62
4	成成明國武獨 現役合格者	38	55	77	90	86
5	4工大 現役合格者	19	17	31	35	15
6	日東駒専 現役合格者	117	143	141	150	172
7	ホームページ更新回数	350	360	342	350	253
8	Twitter 更新回数	58	47	139	100	126